

第27回 コミュニティーワールドカップIN八千代

# TFA

## テクニカルレポート



### 「はじめに」

日頃より、十勝地区サッカー協会事業推進に多大なるご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。お陰をもちまして、今年度のU-14 関東遠征も計画通りに実施することができました。ここに遠征のまとめとしてレポートを作成致しました。

今回の遠征の課題と成果をあげましたが、これが全てではなく、改善しなければならないものはこの他にもありますが、このレポートを活用いただきながら日々のトレーニングに活かしてもらえれば幸いです。

今回、とかち・帯広トレセンが準優勝という結果を残すことができたのも、十勝の指導者の方々が積み重ねて来た成果であると思います。また、トレーニングや当日のゲームで、いつも率直な意見を出し、方向性を一緒に確認したり、ケガ人の対応などゲームに集中できる環境を作ってくれた柴田コーチ、亀谷コーチ。トレセン活動に関わって頂いたスタッフ。大会前日に練習試合をしてくださったミナトサッカークラブの曾我さんなど各関係者の皆様に感謝とお礼を申し上げます。

2017年度 とかち・帯広トレセンU-14 関東遠征担当

監督	寺島 徹
コーチ	柴田 恭兵
コーチ	亀谷 直樹

## 「大会の概要」

主催：第27回 コミュニティワールドカップサッカーin八千代 実行委員会

大会会場：八千代市総合グラウンド・八千代総合運動公園・秀明大学グラウンド  
八千代松陰中学校・東京成徳大学グラウンド

参加チーム：とがち帯広トレセンU14・チームスポーツやちよ・済物浦FC・相模原市選抜U14  
習志野市選抜・東京朝鮮中学校選抜・南総トレセンU14・小田原地区中体連選抜U14  
いわきトレセンU14・暁星中学校・松戸市U14中体連選抜・船橋市トレセン  
宮崎県トレセンU14・沖縄県島尻U14選抜・八千代市選抜A・八千代市選抜B

## 「とがち・帯広トレセンのコンセプト」

＜攻撃＞

- ・全員攻撃
- ・攻撃の優先順位を意識した攻撃
- ・判断を伴ったプレー
- ・アクションサッカー

＜守備＞

- ・全員守備
- ・優先順位を意識した守備
- ・1stDFで奪う
- ・コンパクトフィールドを形成し、前線から連動してボールを奪う

## 「大会に向けた準備」

昨年度から約1年半かけてトレセントレーニングや選考会、道東トレセンリーグへの参加、夏の札幌遠征、各クラブチームの活動を視察、更にオフザピッチでの振る舞い等を考慮し、選手を選考した。

高校生との練習試合が降雪により中止となってしまったが、道東トレセンリーグへの参加を初顔合わせとし、計4回のトレーニングを実施することができた。ケガや体調不良のため、第一回目のトレーニング以外で全員が揃ってトレーニングをすることができなかったが、トレーニングを重ねるたびに少しずつチームとしての戦い方を理解し、オフザピッチの部分でもチームとして大切にしたいことを確認、意識していくことができた。

## 「大会に向けての課題」

＜守備＞

- ・1stDFでボールの奪い方。
- ・連動した守備の構築
- ・人やスペース管理。

＜攻撃＞

- ・積極的なアクションを起こしてボールを引き出す。
- ・オフでポジションをとる。
- ・マークを外す。
- ・観て、判断のあるプレー。

## 「トレーニング&練習試合」

11月23日（木）道東トレセンリーグ（網走遠征）

＜守備＞

- ・奪う意識が低く、できるだけゴールに近いところでボールを奪えない
- ・1stDFが明確にならず、連動した守備にならない
- ・人に付いてしまい、スペース管理ができない
- ・スライドが遅く、ポジションの修正を素早く行えない
- ・攻→守への切り替えが遅い

## <攻撃>

- ・ソロで攻撃することが多く、人数をかけられない
- ・相手とマッチアップされた状態でボールを受けることが多い（マークを外していない）
- ・守→攻への切り替えが遅い

## <GK>

- ・シュートストップの技術はとても高い
- ・ステップや構えるタイミング、構え方への意識が低い
- ・ポジショニング（サイドから攻められ、アングルがついた場合）が的確に取れない

→課題が明確になり今後やるべきことがはっきりした

## 12月2日（土） トレーニング（池田中学校体育館）

### ①ドジング

- ・ステップや姿勢、相手との距離間を確認

### ②2対2+2サーバー

- ・1stDFの対応（予測、距離間、奪う意識など）
- ・スペースを守りながらボールを奪えるポジションの獲得

### ③4対4+1フリーマン+2サーバー

- ・1stDFの決定
- ・1stDFの質
- ・ギャップにボールを通させない守備
- ・ボール状況に応じたポジショニングの確認

### ④4対4+1フリーマン+GK

- ・ゴールを守りながらボールを奪う意識を持ち、ポジションを取り続ける
- ・GKとの連携
- ・ゴール前の攻防（シュートブロック、簡単に飛び込まない、など）

### GK①ステップワーク

- ・ボールを体の正面で捉えるために、移動する方法、スピードを修正

### GK②キーパーの基本技術練習

- ・体の使い方、足の運び方の再確認をする
- ・ローリングダウンやダイビング、倒れた後の起き上がり方を習得する
- ・ハイボールの処理の仕方を理解する

### GK③構え、ポジション

- ・常にゴールの中央をとれるようにする
- ・良い準備とは何かを理解する

## 12月3日（日） トレーニング（池田中学校体育館）

### ①パス&コントロール

→三角形に置かれたコーンを相手選手に見立て、時計、反時計回りに行う

- ・パスの出し手と受け手のタイミングの共有
- ・マークを外して受ける
- ・遠い足で受けて体の向きを作り、観る

### ②2対2+1フリーマン

- ・マークを外す（相手の背後をとって受ける）
- ・遠い足で受けて体の向きをつくり、観る
- ・相手を観て、1stタッチを考える

### ③3対3+2サーバー

- ・マークを外す
- ・縦パスの意識
- ・縦パスを入れるタイミングを全員で共有する
- ・遠い足で受けて前を向く、観る

- ④4対4+1フリーマン+GK
- ・GKとの連携
  - ・体の向きを作り、常にゴールを狙う意識
  - ・ゴール前の攻防、フィニッシュ

#### GK④ビルドアップ

- ・ボールの持ち方、パスの質について確認
- ・優先順位を意識する

## 12月10日（日）トレーニング（池田町総合体育館）

### ①パス&コントロール

- グリッドを4つ、正方形に作り、そのうち3つに4人ずつ入る。それぞれのグリッドの中で条件を加えながらパス&コントロール
- 空いているグリッドにスルーパスインし、グループごと移動する
  - ・ボールを引き出す動きのタイミングの確認
  - ・どのスペースが空いているかをグループ全員で共有する

### ②2対1+2対2+2対0（セパレート、3対3対3）

- ・1stDFの質の確認
- ・数的不利の中で奪いにいく意識とタイミングの確認
- ・マークを確認しながら縦ズレを起こし、奪いにも行けるポジションの獲得。
- ・コミュニケーション

### ③5対5+GK（ラインゴール）

- ・中央にボールを入れられない強い守備
- ・1stDFの質（予測、アプローチスピード、距離間）
- ・スライド、カバーリングの意識

### ④コーナーキックの確認

- ・守備のマークの付き方、攻撃のゴール前への入り方、キッカーなどの確認

### ⑤5対5+GK

- ・ゴール前の攻防
- ・GKとの連携
- ・FKを入れ、壁の作り方の確認

### GK⑤初回に行った基本技術の強度を高めたトレーニング

### GK⑥アングルプレー

- ・ポジションをとる基準を理解する
- ・相手の状況を見て判断する

## 12月16日（土）トレーニング（池田中学校体育館）

### ①1対1

- ・相手との距離間の確認
- ・粘り強い守備

### ②2対2+2サーバー

- ・守りながら奪えるスタートポジションの確認
- ・プレスバックの意識
- ・ボール状況に応じたポジショニングの確認

### ③5対5+GK（ラインゴール）

- ・中央へボールを入れられない意識
- ・スライド、カバーリング、プレスバックの意識
- ・サイドでボールを奪う狙いの確認

### ④4対4+1フリーマン+GK

- ・ボールと逆サイドの選手のポジショニングの確認
- ・コンパクトフィールドの形成
- ・ゴール前の攻防、フィニッシュ

## GK⑦ブレイクアウェイ

- ・フロントダイブ、ブロッキングなどの基本技術を習得する
- ・ステップを細かくし、相手の状況を見てプレーの選択をする

## 12月22日（金）現地での練習試合（v.s みなとFC（現地町クラブ））

### <守備>

- ・前線から積極的にプレッシャーをかけることができた
- ・次第に広さに慣れ、コンパクトフィールドを形成する意識が高まってきた
- ・縦ズレから積極的にインターセプトができ、カウンターを仕掛ける回数が増えた
- ・コンパクトにする意識は良いが、スライドが遅れ、中央突破されることがあった
- ・ラインコントロールの意識が低い

### <攻撃>

- ・ソロでの攻撃が多い
- ・判断を伴った攻撃が少ない
- ・マークを外せていない
- ・縦に蹴るだけなど、単調な攻撃が多い

→課題は残ったが、積極的で、連続した守備をすることができ、カウンターを中心に得点を重ねられた。少しずつ戦い方を共有できるようになってきた。

## 「とちぎ・帯広トレセンの戦い」

### ①グループリーグ VS 松戸市立U-14中体連選抜／千葉県

初戦だったが固くなることもなく、前半立ち上がりから積極的に守備をすることができ、押し込む時間帯が多くあった。中盤でボールを奪取し、素早く前線へ。動き出していたFWが抜け出し、そのままゴール。先制できたため、ある程度落ち着いてゲームを進めることができた。途中、なかなか狙ってボールを奪うことができないためカウンターを仕掛けられず、ボールを動かしながらゴールを目指す中でボールを失い、危険な場面を作られたが、それでも前半に個人技で更に1点を追加できた。後半は選手を交代させ、点差を考えながら臨んだ。ボールがうまく収まらず、自分達のミスから危険な場面を作ることもあったが、最後のところで体を張って個で対応することができ、2点差を守り切り、初戦を切り抜けた。

### ②グループリーグ VS 南総トレセンU-14 / 千葉県

相手のシステムに合わせ、こちらのシステムも変更して臨んだ。前線から積極的にプレスをかけ、ボールを奪うシーンが増えてきた。ただ、なかなか前向きにボールを奪うことができないため、カウンターを仕掛けることが難しかった。そのため、ビルドアップに切り替えボールを運ぼうとするも引っかけりを奪われ逆にカウンターを仕掛けられ危険なシーンを作られてしまった。ただ、GKの活躍やゴール前での粘り強い守備で対応することができたのは良かった。後半、カウンターを仕掛けられないときはFWにボールを収め、そこに人数をかけ、シンプルに前向きの選手を使うよう対応。CKから先制を許してしまうが、うまくFWに収まったところにSHが関わり、得点することができた。少しずつ裏へ抜け出すタイミングも掴めてきて、押し込むシーンも増えてきたが、そのままドローで試合終了となった。

### ③グループリーグ VS 暁星中学校 / 東京都

引き分け以上でグループ1位が決まる大事な一戦。相手は前大会優勝チームであったが憶することなく戦うことを確認。また、縦に早く、クロスボールの精度も高いことを警戒した。前半、相手に長いボールを蹴らせないよう、高い位置から、また、奪われた後すぐにプレッシャーをかけることで相手のしたいサッカーをさせず、互いに譲らない攻防が続いた。後半、警戒していたサイド攻撃から先制されてしまうが、FWにボールを収め、時間を作ったところにSBが攻撃参加。折り返しをダイレクトで合わせ残り5分で同点に。勝利とはいかなかったが、何とか1位でグループリーグを突破することができた。

#### ④ 1位リーグ VS 小田原地区中体連選抜U-14 / 神奈川県

1位リーグということで、今までの相手よりプレッシャーが早く、当たりも強い。また、技術も高いため、改めて気を引き締め、やれることを徹底して行うことを確認して臨んだ。強風の中、前半は風上に立っていたため縦パスが通りやすく優位に進められた。ただ、相手の個の技術が高かったことから、思ったようにプレスをかけられないこともあり、守備が後手に回ったところを、中央突破され先制されてしまう。それでもやることを変えずシンプルに縦に繋ぎ、スルーパスに反応して抜け出し、FW、SHから3得点をあげることができた。後半は風下に立ち、防戦一方になり1失点をしたが何とかしのぎ切り、3-2で辛くも勝利することができた。

#### ⑤ 1位リーグ VS 済物浦FC / 韓国

前の試合同様、風上でのスタート。相手はDFラインから丁寧にビルドアップしようとしてきたが、こちらのプレスに対応できず、前線でボールを奪取する場面が多くあり、カウンターを仕掛けられた。また、それを全員が共有できるようになってきたため、奪った瞬間に前線に人数をかけ、連動して攻撃することができ、「前線でのハイプレッシャーからカウンター」というこちらの狙いがようやく形になり3得点をあげることができた。うまくいかない苛立ちからか、相手のラフプレーも多く、ケガ人を出すこともあったが、風下の後半、耐え凌ぐシーンも多くある中、最後まで冷静に戦い続け3-0で勝利することができた。タフな戦いとなったが、全員がやるべきことを理解し、それぞれが躍動した好ゲームとなった。

#### ⑥ 1位リーグ VS 宮崎県トレセンU-14 / 宮崎県

引き分け以上で優勝が決まる大事な一戦。最後の戦いに向け改めて気を引き締め直し、守備の徹底を確認。DFラインの上げ下げやスライドを素早くし、しっかりコンパクトフィールドを形成して臨むことを話した。相手は個の技術が高く、丁寧にボールを繋ぎながらスピードのあるFWにスルーパスを出しゴールを脅かしてくる。ただ、こちらは連日の疲れからか足が思ったように動かないためプレッシャーをかけることができず、序盤から苦しい展開が続いた。そんな中、相手の縦パスに対する、ボールの処理が中途半端なものになってしまい、失点してしまう。その後すぐにサイドからの折り返しにSHが反応し同点にするも、サイドを崩され、クロスボールからヘディングで押し込まれ失点。後半、やるべきことを確認し、気合を入れ直したものの空回りし、焦り、そして思ったように足は動かず・・・選手を交代しながら全員で戦い続けたが、最後は中央突破を許し失点。最終スコアは1-3で、初黒星となってしまった。

### 「成果」

- ・トレーニング、ゲームを重ねるごとに一体感が生まれてきた。
- ・守備の意識が高まり、球際でも負けずに戦うことができた。
- ・どのチームの相手にも臆することなく、フィジカル的にも技術的にも対等に戦うことができた。
- ・GKのゴールディフェンスの技術が大会を通じて高まった。
- ・GKのディストリビューションの成功率はとても高かった。

### 「課題」

#### ① オフ・ザ・ボールでの動き

ボール状況に応じてポジションをとる、マークを外すなど、ボールを持っていない時に積極的な関わりができず、対応が遅れたり行き当たりばったりなプレーとなってしまった。そのことでボールを失う、ボールを奪えない、突破されるシーンが多かった。

#### ② 観る・判断する・アクション

判断を伴ったプレーができず、「ボールを持ったらまずドリブル」「裏にスペースが無い、アクションが起きていないのに裏を狙う」など、状況に合わせてプレーを選択できず、単調な攻撃や安易にボールを失うシーンが見られた。オフザボールでの動きにも関わるが、もっと観ることを強調し、いつ、何を観ておく必要があるか具体的に伝え続ける必要があった。また、ボールを受ける側も、アクションを起こしてボールを引き出したり、スペースを作るなどの動きが少なく、ボールが出てから反応する「リアクション」で対応することが多かった。いつ、どのように、どこにアクションを起こすか、確認すべきだった。

### ③onの技術の向上

ボール操作では他の選手に負けていなかった。ただ、プレッシャーを受けたときのボールコントロールをまだまだ正確に行えない場面が見られた。よりシンプルなプレーを正確に、そして、動きながら確実にボールをコントロールする技術を、どんなハイプレッシャーの中でも発揮できるよう働きかけたら良かった。

## 「関東遠征を終えて」

怪我人も多く、苦しい展開のゲームが続いてしまいましたが、最後まで戦い抜くことができたことは大変素晴らしかったと思います。それも全て、結果だけでなく、日々、自身を改善しようと積み重ねてきたことが大きかったと思います。オフザピッチも含め、改善すべき点は色々ありましたが、常に自身を向上させようと取り組み続ける姿勢は全国から集まった他のチームにも負けない、誇らしいものだったと実感しております。

トレセン活動を通して、チームとしての成長だけでなく、個としての成長を更に図り、いちサッカー選手として、また、いち一人の人間として、どこへ行っても通用する選手をこれからも育成し続けていきたいと改めて感じました。今後も学ぶことをやめることなく、目の前の子ども達と誠実に向き合い、共に切磋琢磨し、更に十勝のサッカーに磨きをかけられるよう努力していきたいと思えます。

改めまして、各チーム指導者の皆様や各関係機関の皆様に深く感謝の意を表し、レポートのまとめとしたいと思います。